

平成28年度 「大阪市中学校3年生統一テスト」における 新東淀中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市中学校3年生統一テスト」について、平成28年10月6日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校の第3学年
- ・ 新東淀中学校では、第3学年227名

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成28年度「大阪市中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

学校名	大阪市立新東淀中学校
生徒数(人)	227

平均正答率（点）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	61.8	51.1	53.7	51.3	59.2
大阪市	65.4	54.4	56.0	55.0	61.2

結果の概要

【国語】定期テストでの聞き取り問題の出題により「話すこと・聞くこと」への意識が向上して平均正答率がわずかながら上回る結果であったが、「書くこと」については残念ながら余り芳しくない結果であった。

【社会】授業で学習して間もない公民分野での得点が低かった。

【数学】正答率分布表の結果より80%以上の得点率が特に低く、授業で応用問題・発展問題に力を入れて取り組んでいきたい。

【理科】カテゴリー別では、粒子と生命の分野で4.0%以上下回っていたが、地球の分野ではわずかながらではあるが正答率を上回る結果であった。

【英語】大阪市平均と大きな差はなかったが、外国語表現や記述能力の弱さが目立った結果であった。

成果と今後取り組むべき課題

【国語】「話すこと・聞くこと」については、今後も聞き取りテストの取り組みを通して意識の向上を図る。「書くこと」については、考えて書くことに対する苦手意識を持った生徒が多く、授業で定期的に取り組んでいきたい。

【社会】基礎・基本事項の定着を目指して、用語を正しく理解して、反復に習慣をつける必要がある。

【数学】基本的な計算力の向上を図るとともに、家庭学習の習慣化のための工夫を行い、指導していく必要がある。

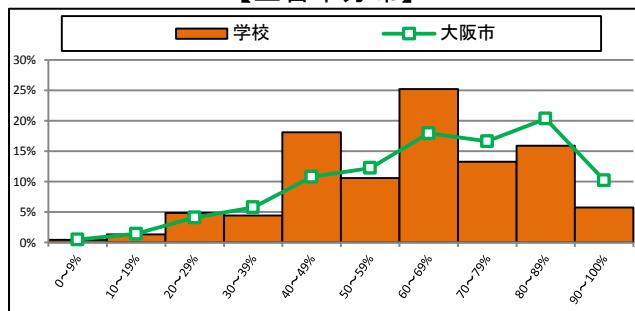
【理科】地球の分野では時間をかけ十分に説明をすることができたが、粒子と生命の分野では不十分であり、復習の機会を増やしていくことが今後の課題である。

【英語】表現や記述力の弱さを少しでも向上させるために、日本語を見て英文を作る問題など授業での反復練習を通して改善を図りたい。

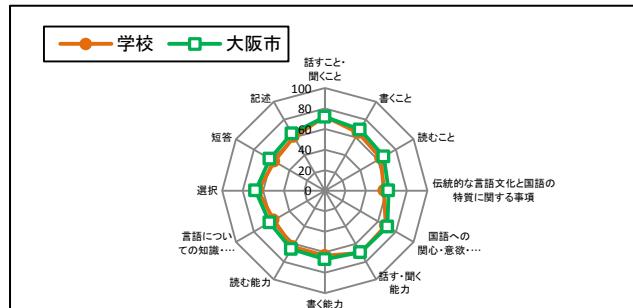
【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

【国語】

【正答率分布】

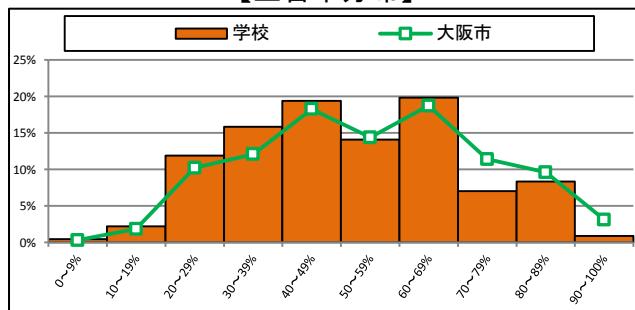


【領域・観点・問題別の分布】



【社会】

【正答率分布】

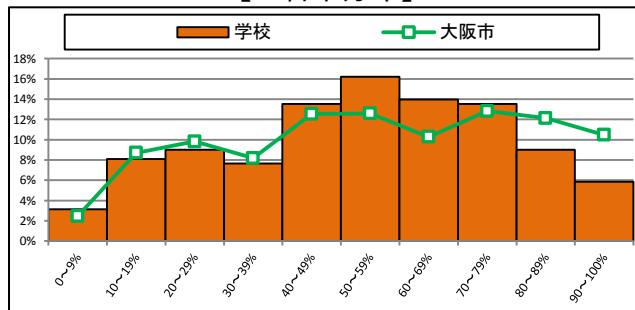


【領域・観点・問題別の分布】

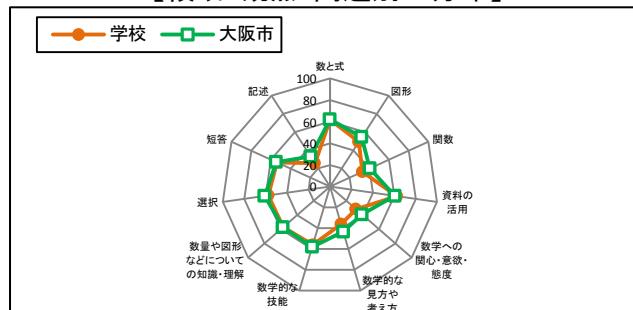


【数学】

【正答率分布】

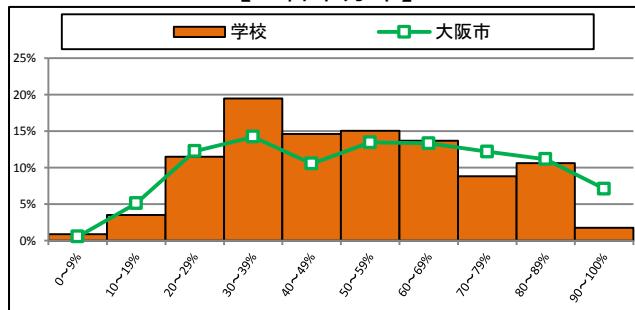


【領域・観点・問題別の分布】

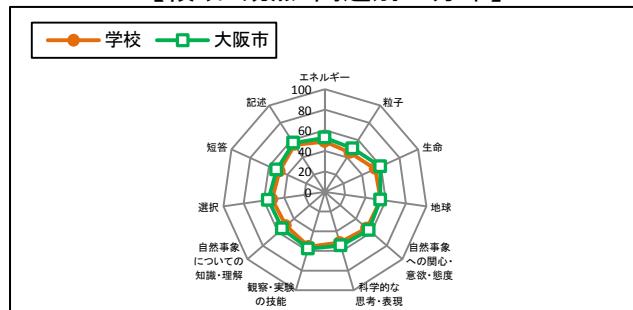


【理科】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

